

地域がん診療連携拠点病院<川崎市立井田病院からのお知らせ>

第75号

井田山

基本理念「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」

当院ホームページをご覧ください

市立井田病院 

発行責任者 田中 良典

編集 川崎市立井田病院 ホームページ・広報委員会

川崎市中原区井田2-27-1

電話 044-766-2188 (代)

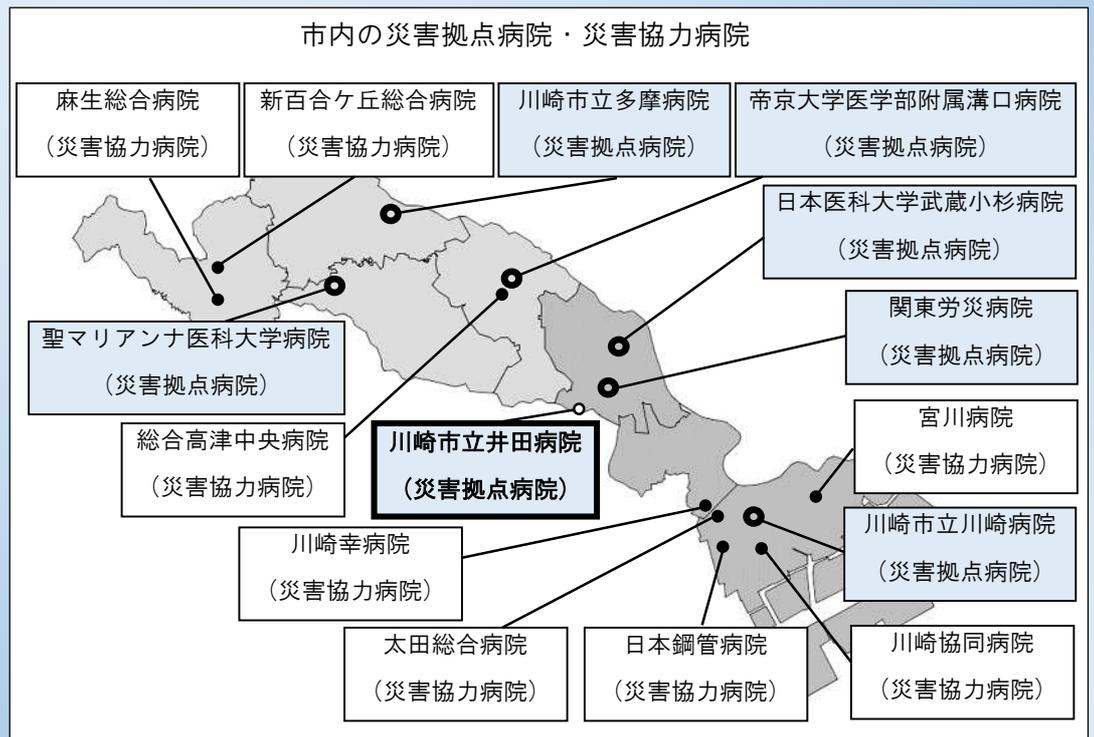
～災害拠点病院に指定されました！～

当院は、令和4年7月1日に、神奈川県から災害拠点病院として指定を受けました。災害拠点病院とは、大規模災害時に医療救護活動の中心となる医療機関として、傷病者の救命医療を行うための高度の診療機能、ヘリコプター等を使用して傷病者の受入れ及び搬出を行う広域搬送への対応機能、災害派遣医療チーム（DMAT）・保健医療活動チーム等の受入れ機能等を有する病院です。

また、災害拠点病院はDMATを保有し、その派遣体制があることが求められており、当院は神奈川DMAT指定病院でもあります。

災害時に他の災害拠点病院・災害協力病院等と連携して医療を提供するとともに、洪水浸水・土砂災害想定地域外に位置している強みを生かして、近年頻発する台風などの風水害時においても役割を果たしてまいります。

<文責：庶務課 石原>



看護の日のイベントを開催しました

5月12日はナイチンゲールの誕生日です。ナイチンゲールは私たち看護師の大先輩であり「近代看護教育の母」と言われています。また看護だけではなく、都市の感染対策に貢献したと伝えられています。日本看護協会はそんなナイチンゲールに敬意を払い、5月12日を看護の日と決めました。

井田病院ではこの2年間、コロナ渦の影響で看護の日のイベントが開催できませんでした。今年度は看護部が大切に行っている「つなぐ看護」をテーマに各部署でポスターを作成しました。患者さんからは「温かさを感じた」「癒された」などの言葉もいただきました。これからも看護部の理念である「温かい心と優しい手確かな技術を提供します」を大切にしていきます。

〈文責：看護部 敦賀谷〉



● 薬剤部のご挨拶



このたび令和4年4月1日付けで副薬剤部長を拝命いたしました、小林 岳（こばやし たけし）と申します。平成9年に川崎病院に入職し、平成31年に井田病院に異動して今年で4年目になります。まだ3年間ではございますが井田山の自然と文化に触れ、その温かさと優しさから本来病院が持つべき“癒し”の大切さに気付きました。薬剤部門においても、働きやすい職場環境と良好なコミュニケーションを通じて、薬剤の専門家として安心・安全な薬物療法を提供できるよう努力してまいります。

さて、薬剤部は本年4月に3名増員となり正規職員19名、会計年度任用職員8名の27名体制となりました。次年度も3名増員が予定されており、いよいよ30名体制の大所帯となります。6名の増員により、これまでで十分ではなかった病棟や外来における薬物療法支援を充実させていきたいと考えております。病棟では、各病棟に専任薬剤師を配置し、従来から行ってきた入院患者に対する服薬指導や服薬支援に加え、医師への処方提案等の処方支援を積極的に行うことで薬物療法の安全性の向上を図ります。外来では、入院を予定している患者の常用薬情報を事前に聞き取ることでスムーズに入院できるよう支援します。特に、手術予定患者に対しては抗凝固薬などの術前休止薬の確認を行い、手術延期などのアクシデントを未然に防ぎます。外来で抗がん剤治療を受ける方には、がん専任薬剤師が副作用の聞き取りやがん薬物療法の説明を行うことで、副作用を軽減したり安全に治療を受けられるようサポートいたします。このような薬との関りを通じて、私たちはより多くの方々に“安心”と“癒し”を届けられたら幸いです。皆様に井田病院を選んでよかったと思っただけのよう、今後もより一層努力してまいります。〈文責：薬剤部 小林 岳〉

診療科紹介 ～皮膚科～

皮膚科全般に対し幅広く、地域拠点総合病院として外来・入院診療を行っています。

手術は、粉瘤・脂肪腫などの良性のものから、皮膚癌など悪性のものまで積極的に行っており、植皮術や皮弁による形成手術も可能です。画一的にならない、個々の患者様に応じた手術療法の工夫をしています。

●今回は当院での治療をご紹介します！

☆爪、毛、汗のトラブルも皮膚科にご相談ください。

- ・まき爪：ワイヤー・巻き爪マイスター・クリップ・ガター・フェノール法など
- ・ぶ厚い爪(厚硬爪)のグラインダー削り・爪切り
- ・爪水虫・糖尿病足のトータルケア
- ・脱毛：SADBE(サドベ)、エキシマ照射、生物学的製剤投与、男性型脱毛症の内服治療(フィナステリド、デュタステリド)
- ・多汗症：保険適応の新しい塗布薬が処方可能になりました。

☆ひどいかゆみ：光線療法(ナローバンドUVB, エキシマ, PUVA)

☆アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、化膿性汗腺炎(膿疱症)：生物学的製剤投与も可能です。

☆腫瘍皮膚浸潤：緩和ケア科と協力の元、ロゼックスゲル®、モーズ氏ペースト等による処置・ケア

☆その他

- ・アレルギー検査：パッチテスト、ブリックテスト、アレルギー採血
→ 金属・家庭工業用品 薬剤 お使いの化粧品・薬剤などのテスト
歯科金属は問題ないか等
- ・病院の弾性ストッキングがきつくてはけない方への個別指導

マスクを外せるときの為
に、肌ケアしておこう！

実はこんなこともやっています！

しみ(老人性色素斑など)・できもの(脂漏性角化症)に対するレーザー治療

Qスイッチルビーレーザー、超短波長炭酸ガスレーザー等実施しています。お気軽にご相談ください。



※一部自費診療あり

〈文責：川崎市立井田病院皮膚科 部長 安西 秀美〉

令和4年7月4日より、がん・総合健診 センターを開設しました！

井田病院では、地域がん診療連携拠点病院として、がんの早期発見を重視した健診に取り組んでおります。人間ドックや各種がん検診のほか、特定健診などを積極的に実施し、確かな実績と丁寧な診断により、皆さまの健康をお支えます。

・詳細は当院健診のホームページをご覧ください。

<https://www.city.kawasaki.jp/33/cmsfiles/contents/0000037/37855/ida/jushin/healthscreening/gansougoukenshincenter.html>

★お申し込み方法

すべての検診は予約制です。ご希望の方はお電話または、窓口でお申し込みをお願いいたします。

●お電話での申し込み

受付日時：平日 午後1時～午後4時

電話番号：044-766-2188 (代)

※「市の健診です」とお話しください。

●窓口での申し込み

受付日時：平日午前8時30分～午後3時

受付場所：1階総合受付窓口 〈文責：医事課 久保〉

～熱中症対策について～

今年の関東地方の梅雨明けは6月27日でした。6月の梅雨明けは統計を取り始めて以来のことだそうです。連日暑い日が続く、熱中症で救急搬送されたニュースやコロナ禍における熱中症予防について報道されていますがもう一度確認をお願いします。

熱中症は①体液の不足で起こる障害②体温上昇で起こる障害の総称です。高齢になると誰でも暑さやのどの渇きを感じにくくなります。この暑さで発汗し、脱水から熱中症になります。また熱中症で救急搬送された高齢者は屋外より屋内での発症が多くなっています。屋内、夜間でも熱中症に注意が必要です。そのため熱中症対策のポイントを3つお伝えしたいと思います。〈文責：看護部HCU病棟 クリティカルケア認定看護師 吉田 龍也〉

①水分補給をしましょう

脱水にならないように手が届くテーブルや枕元に水筒やペットボトルを置き、のどが渇いていなくても時間を決めて水やお茶などの水分をとりましょう。**特に寝る前と夜中トイレに起きた時、起床時はいつもより多めに水分を取って下さい。**



②体温調整をしましょう

体温が上がらないように適切にエアコンを使用しましょう。新型コロナウイルス感染症予防のため換気しながら昼夜を問わず**室温が28度以下になるように調節して下さい。**



③緊急時は救急搬送を検討しましょう

なんとなく元気がない、ぼーっとする、脱水が疑われる時は市販の経口補水液を飲みましょう。**水分が取れない場合は救急搬送を検討して下さい。**



食中毒に注意しましょう！

梅雨時期(5月～6月)と夏(7月～9月)は湿度や気温が高く、細菌が増えやすいので、細菌性の食中毒の発生件数が増加する傾向にあります。

冷たいものがおいしく感じられる時期のため加熱せずに食べる機会が多いことや、暑さで体調をくずし抵抗力が衰えがちなことなどが食中毒の増加に影響しているようです。

カンピロバクター食中毒は代表的な細菌性食中毒で、主な原因食品は、生や加熱不十分な鶏肉や牛レバーです。食品は十分に加熱しましょう

また、やかんに入れたスポーツドリンクを飲んで食中毒になったという例もあります。水道水に含まれる微量の銅成分が古いやかんの内部に水垢として蓄積し、酸性のスポーツドリンクで溶け出し、嘔吐・下痢を起こしたと考えられています。やかんに長時間スポーツドリンクを入れないようにしましょう。〈文責：感染症対策課 森田〉